

専門的がん疼痛治療WebコンサルテーションシステムChallenge-CanPainについて

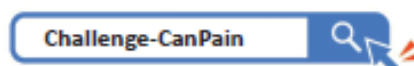
地域連携基盤：医療者が専門的がん疼痛治療の適応など相談するためのプラットフォーム



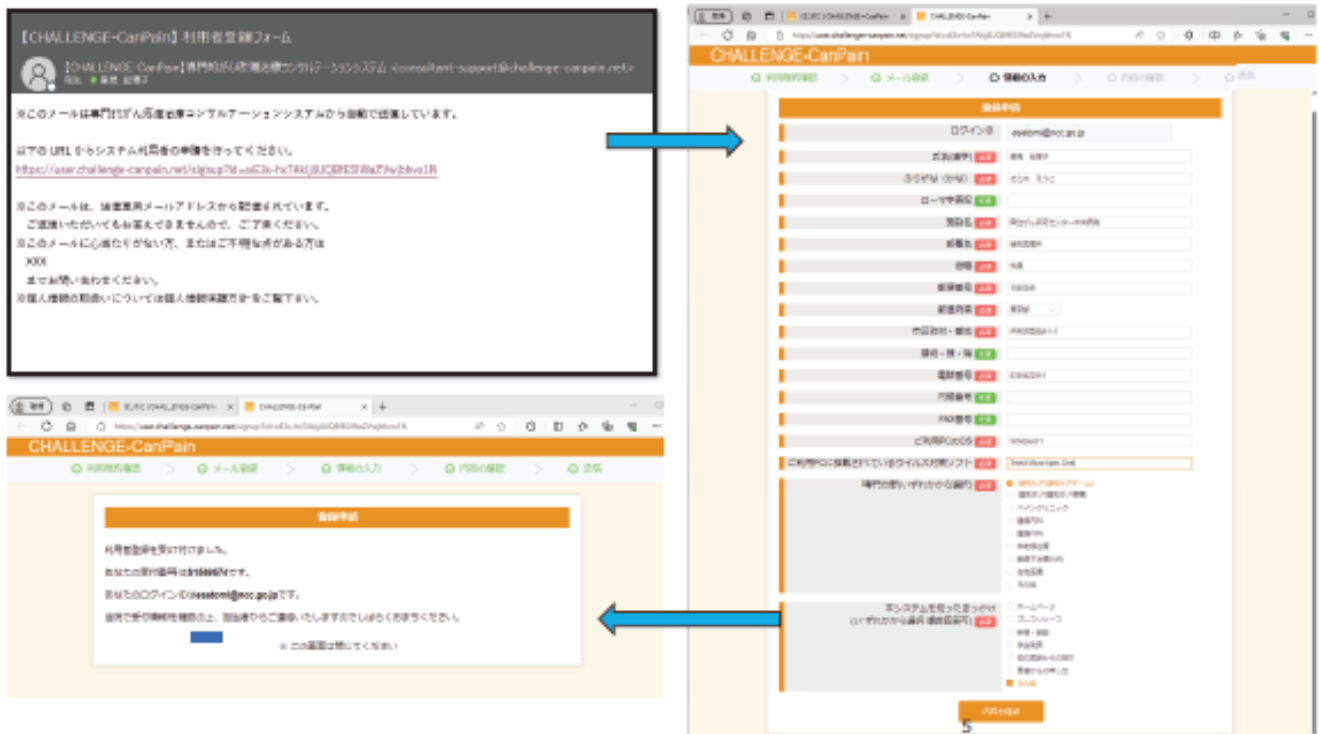
利用可能者：医師

Home Page：<https://challenge-canpain.net>

上記ホームページは開設済みです。
システム利用申請をしていただけたら
アカウント発行がされて利用できます。



厚生労働科学研究費補助金(2022-2024) がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および
専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究班



地域連携基盤：医療者が専門的がん疼痛治療の適応など相談するためのプラットフォーム



アカウント発行後、**お使いになるPCにおいて** 証明書ボタンを押して、**セキュリティを担保** するために表示される証明書をインストールする必要があります。

厚生労働科学研究費補助金(2022-2024) がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および 専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究班

1. CHALLENGE-CanPain トップページ (<https://challenge-canpain.net/>) から「システムログインボタン」をクリックしてください。



2. ログイン画面が表示されますので、ご自身のアカウント（メールアドレス）とパスワードを入力し、ログインボタンをクリックしてください。



2024/5/29

メール作成

送信日時: 2024/5/29 10:00

From: コンサルタントチーム

To: コンサルタントチーム

件名:

本文

本文は、以下の1～6の項目に記入し、送信してください。 ※本文

1. 診断名
2. 痛みの場所とその原因
3. コンサルト目的
 - 緩和的放射線治療
 - 神経ブロック
 - 画像下治療：椎体形成術（骨セメント）、 画像下治療：動脈塞栓術
 - メサドン薬物療法
 - その他（自由記載）
4. 「Challenge-CanPain」を利用した理由
 - 近くに相談できる医師がない
 - 手軽だから
 - その他（自由記載）
5. 患者ADL：0-4、推定予後（日～週単位、月単位、年単位）、せん妄の有無、止血・凝固異常の有無

その他：相談関係の件

添付ファイル

ファイルを選択

ファイルを選択

ファイルを選択

送信

キャンセル

送信

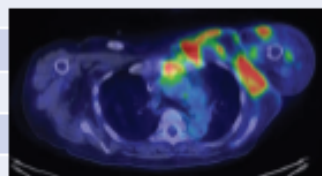
画像添付

1. 診断名
2. 痛みの場所とその原因
3. コンサルト目的
 - 緩和的放射線治療
 - 神経ブロック
 - 画像下治療：椎体形成術（骨セメント）、 画像下治療：動脈塞栓術
 - メサドン薬物療法
 - その他（自由記載）
4. 「Challenge-CanPain」を利用した理由
 - 近くに相談できる医師がない
 - 手軽だから
 - その他（自由記載）
5. 患者ADL：0-4、推定予後（日～週単位、月単位、年単位）、せん妄の有無、止血・凝固異常の有無
6. 現在使用している鎮痛薬
7. 治療に影響を及ぼす既往症・合併症・内服薬の有無
8. その他 相談したいこと（自由記載）

個人情報を含めないでください！

実際に相談のあった症例を基にした一例（一部加工。画像はイメージです。）

診断名	ひだり乳癌皮膚浸潤 ひだり腋窩リンパ節転移
痛みの場所とその原因	ひだり上肢神経障害性疼痛、皮膚浸潤部からの出血
コンサルト目的	緩和的放射線治療の対象となるか
本システムを利用した理由	近くに相談できる医師がない
患者ADL	2
推定予後	月単位
せん妄の有無	無
止血・凝固異常の有無	クロビドグレル内服中
現在使用している鎮痛薬	オキシコドン徐放剤40mg/日、プレガバリン150mg/日
治療に影響を及ぼす既往症・合併症・内服薬の有無	甲状腺機能亢進症、脳梗塞、メルカゾール、クロビドグレル等
その他 相談したいこと (自由記載)	60代女性、総合病院にて診断後、BSCの方針となり、施設入所で在宅医療を行っています。疼痛や出血の軽減のために緩和照射は適応となりうるのでしょうか、御教示頂ければと思います。



コンサルタントの回答

緩和的放射線治療の適応と存じます。

ただ、予後や背景的な厳しさもあるようですので照射回数はかなり限られそうです。それでも疼痛緩和と出血の軽減はある程度図れると思います。リンパ浮腫の軽減は難しいかもしれません。

●●市では以下の2病院が放射線治療を行っておりますので、ご相談してみてもいかがでしょうか

●▲病院、■■病院

因みに、放射線治療のご相談をなさる場合、今回頂いた情報の他に、移動手段や外来で待機可能な全身状態かどうか、数回の外来治療なら通院可能かどうか、もしくは入院希望の有無、レスキュー使用の有無等の情報も合わせてお持ち頂けますとご相談がスムーズかと存じます。

(手前味噌になりますが、放射線治療学会のHP 緩和放射線治療内にチェックリストがありますのでよろしければご参考になさってください)

<https://www.jastro.or.jp/medicalpersonnel/palliative/>【スライド】緩和放射線治療地域連携モデル 内 P.3)

よろしく願いいたします。

- ✓ Web上でSecureな環境でのコンサルテーション
- ✓ 画像添付可能
- ✓ 事務局による振り分け→簡単な相談が可能
- ✓ 緩和ケア医、放射線治療医、ペインクリニシャン、IVR医による回答



*単回放射線治療の相談
 *オピオイドを使ってもがん疼痛が緩和しない
 *メサドン使った経験がないが相談したい
 *ブロックやIVRの適応があるのかわからないなど



運用中
 実施可能性を調査していきます

がん疼痛cancer pain とキャンペーン (運動) campaignをかけて
CanPain という造語になっています。

これまでにあった相談と相談申込医師の背景

依頼元	都道府県	依頼者の勤務状況	病態	内容①	内容②	利用した理由	コンサルタント回数			
							神経ブロック・緩和ケア 松本班	緩和放射線 高橋班	緩和IVR 曾根班	班長
1 医師	埼玉	緩和ケア病棟 緩和ケアチーム	胸壁浸潤	神経ブロック	適応可否	神経ブロック施行医師が限られているため	4名	3名	1名	1名
2 医師	福島	在宅医療 (老人施設)	局所進行乳がん	放射線治療	適応可否と近隣施設	近くに相談できる医師がいない		4名		
3 医師	東京	緩和ケアチーム	放射線慢性間質性膀胱炎	神経ブロック	疼痛緩和の方法	関係者で相談したが解決できない	4名			
4 医師	千葉	緩和ケア病棟 緩和ケアチーム	外陰がん自壊 恥骨浸潤	神経ブロック・脊髄刺激法 メサドン	適応可否 疼痛緩和の方法	関係者で相談したが解決できない	1名			
5 医師	北海道	緩和ケアチーム	胸椎転移肋間浸潤	神経ブロック	適応可否	近くに相談できる医師がいない	4名		1名	
6 医師	北海道	緩和ケアチーム	胸椎転移肋間浸潤	神経ブロック メサドン(QT延長)	適応可否 疼痛緩和の方法	近くに相談できる医師がいない	3名			
7 医師	東京	緩和ケア病棟 緩和ケアチーム	仙骨転移	神経ブロック・IVR	適応可否 近隣施設紹介	以前、コントロールに悩んだときに相談できる先として聞いており、今回のような症例について専門家の意見を聞きたいです。	1名		1名	1名
8 医師	北海道	診療所	頸椎転移神経障害性疼痛	神経ブロック 放射線治療 (間質性肺炎あり)	適応可否	近くに相談できる医師がいない	3名			
9 医師	神奈川	在宅医療	膵臓がん	神経ブロック	タイミング	神経ブロックを施行する側の意見が知りたい 緩和ケア専門医が自分ならどのタイミングで紹介(紹介を提案)するかを知りたい。	2名			1名
10 医師	京都	緩和ケアチーム 緩和ケア病棟	肺がん 薬剤性・器質性肺炎	神経ブロック(CPN・神経根ブロック) 放射線治療(肺障害への懸念)	適応可否	神経ブロックと放射線治療、双方からの意見を知らいたため	2名	4名		1名
11 医師	宮崎	緩和ケアチーム	後縦隔平滑筋肉腫	神経ブロック 放射線治療 IVR(TAE)	適応可否	近くに相談できる医師がいない 本人も相談を希望している	2名	2名	1名	1名
12 医師	静岡	麻酔科	虫垂がん	神経ブロック (くも膜下ポート)	医療機器の扱い	近くに相談できる医師がいない	2名			

現在の運用の実態

相談したい医師

- 画像添付可能
- 相談先を選べる
 - 難治痛全般(緩和ケア医・放射線治療医・ペインクリニック専門医・IVR医)
 - 緩和放射線
 - IVR
 - ブロック
- PCバージョンのみ
- 利用PCに証明書インストールが必要

回答医師・事務局

- 専門医
- セキュア環境
 - 具体的なこと、コツのような実践的なことも伝達可能
- 研究の一環(報酬無)
- 回答するタイミングが決められていない
 - 回答が乏しければ班長側でコメントを入れている
- 証明書インストール手順に対する問い合わせ対応

利用者アンケート 回答率50%

- システム利用しやすかった(80%)
 - 電子カルテからの画像を取り出す手間がある
- CHALLENGE-Campaignの助言は有効だった(100%)
 - その理由
 - 非常に参考になった。
 - 自分の考えが間違っていないことの確信が持てた。
 - 専門的なブロック手技の適応は経験がないとわからないため
 - 今後予想される事態についてアドバイスをいただき、先延ばしにせず今やるべきことが明確になった。
 - 地方にいと基本的治療のみなので、特殊な治療にアクセスするには専門家の後押しが必要だった。
- 助言に基づいて専門的治療を実施した(50%)
 - 実施できなかった理由
 - 院内で相談したができなかった
 - 患者・家族の同意が得られなかった
 - 県内に紹介できるところがなかった
- 満足度:満足している(80%)
- その他自由記載
 - どのくらい介入してから相談するとよいか迷う
 - 都会だとできる治療は地方だとリソースがないが、患者家族が都会まで受診することは、身体的にも経済的にも負担になる。
 - 学会の実施可能な施設の施設などはあっても探しに行かないとならない。
 - 代表的な手技について実例が示されていると相談しやすい